

「マスク」が子どもの言葉の発達に与える影響

私たちの周りでは、コロナ感染予防からマスクを着用する事が日常となっています。

しかし、長時間マスクをする事によって乳幼児の言葉やコミュニケーションの発達、心理的な影響がある事がわかってきました。

例えば、子どもの言葉の発達に大切な要素は3つあります。

1つは、声を聴く事。

低月齢の赤ちゃんでも呼びかけると目で追ったり、手足を動かして反応します。

2つめは、話しかけてくる人の目をじっと見て、口の動きに興味を示します。

「バババ・・・」「ブブブ・・・」などの喃語を発して口の動きを練習する時期に、目で見て口の動きを真似しようとしています。

3つめは、相手が話している事がわからない時期でも、相手の表情や視線などを見る事で、「怒っている」「喜んでいる」などの感情、気持ちを察する事が出来るのです。

しかし、マスクを着用しては、声が聞き取りにくかったり、口元が見えない為、表情が見えない状況が起こってしまいます。

大切な時期に様々な経験が妨げられているのかもしれません。

コロナ感染対策はもちろん重要ですが、子どもと接するとき、特に言語獲得する時期には、身体で触れる・目で見る・耳で聴くなど、さまざまな感覚を通して言葉を発達させる環境を守っていく事も同時に大切な事です。

大五京・大五洋では、ネイティブイングリッシュシャワーの時間や絵本の読み聞かせなど、様々な保育の現場において、保育者の一つ一つの表情から豊かな感情や自信、忍耐力や親切心など人としてのメンタリティーが育てられると考え、今まで着用していたサージカルマスクをクリアマスクに変えています。

担任をはじめ保育者の表情を見せて、お子さまと共感できる保育環境に戻し、今しかできない良質体験を子ども達に与える環境づくりを考えています。